

研究テーマ	自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力を育てる図画工作科学習指導の工夫 — 小学校第5学年「マイタワーをつくろう！」における、イメージをふくらませるための材料体験遊びと相互鑑賞を取り入れた学習活動を通して —
-------	---

笠間市立岩間第一小学校 教諭 村瀬 恵子

I 研究テーマについて

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月）（以下「解説」という。）では、第5学年及び第6学年の目標として「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」と示されている。この目標を受け、「形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すことを指導する」と述べられている。また、〔共通事項〕では、「形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」が、造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項として示されている。これらのことから、自分の表したいことを表すために、自らのイメージをふくらませ、表し方を工夫するという活動が重要であると考ええる。

児童の意識・実態調査（平成26年9月1日実施、第5学年2組28人）では、「イメージしたことを表現することに苦手意識を持っている児童が多いことがわかる。授業の様子を見ても、自分の表したいことがイメージできずに、作品例や友人の作品をまねてしまったり、イメージ通りにつくることができずに悩んだりする児童が多く見られる。また、「材料を見たり触ったりしたとき」や「友人と話しながらつくるとき」にイメージが浮かぶと答えた児童が多い。これらのことから、本学級の児童は、材料と触れ合う時間を十分にとることで表したいイメージをふくらませ、友人と積極的にかかわりながら製作する中で様々な表し方の工夫を見付けることができるのではないかと考えた。

そこで、本研究では小学校第5学年「マイタワーをつくろう！」の学習において、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことといったイメージをふくらませるために、授業の導入でいろいろな太さの針金を自由に曲げる・つなげる・伸ばす・巻くといった活動を取り入れながら、針金にはどのような特徴があるのか見付ける材料体験の活動を取り入れる。次に、製作途中で、自分の表したいことや工夫点について発表し合い、意見を交流する相互鑑賞を取り入れることで、自分のイメージをふくらませ、製作に生かすことができるようにする。このように学習活動を展開すれば、自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力が育つと考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

小学校第5学年「マイタワーをつくろう！」における、イメージをふくらませるための材料体験遊びと相互鑑賞を取り入れた学習活動を通して、自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力を育てる図画工作科学習指導の方法を追究する。

3 研究の仮説

小学校第5学年「マイタワーをつくろう！」における、イメージをふくらませるための材料体験遊びと相互鑑賞を取り入れた学習活動を展開すれば、児童は、言語からの発想と材料からの発想がつながり、自らのイメージをふくらませ、工夫して表すことができるであろう。

II 研究の実際

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力について

神戸大学名誉教授の東山明氏は、「イメージをふくらませるためには、自分の表すものを決める前に、材料と触れ合ったり友達とかかわったりして遊ぶ活動を取り入れることが大切である。」と述べている。また、解説では、自分のイメージを、「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいこと」と示している。このイメージは、「表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手掛かりとなっている」と述べられている。

そこで、本研究では、「自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力」を「材料から形、奥行き、動きの特徴をとらえ、そこから想像力を働かせて自分なりの発想・構想をする力」、「発想・構想したことを基に、自分の表したいことを伝える表し方を工夫する力」と捉える。

イ イメージをふくらませるための材料体験遊びと相互鑑賞を取り入れた学習活動について

解説では、「A表現」の中で、「児童が材料などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通してとらえた形や色、イメージなどから、思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用して造形遊びをする活動を通して、発想や構想の能力、創造的な技能を育てる」と示されている。また、「子どもがよろこぶ『遊びの活動』を取り入れた楽しい図工」の中で森坂実紀人氏は、「イメージを広げるためには、自分の表すことを決める前に材料と触れ合ったり友達とかかわったりして遊ぶ活動を取り入れること、表し方を工夫し表現するためには、材料や用具、表現技法等と自ら向かい合うための遊ぶ活動を取り入れることが大切である」と述べている。

これらのことを踏まえ、いろいろな太さの針金を自由に曲げる・ねじる・つなぐ・巻く・巻き付けるといった造形遊びを取り入れることで、児童の感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことといったイメージがふくらむようにし、材料から形、奥行き、動きの特徴をとらえ、そこから想像力を働かせて自分なりの発想・構想をする力を育成することができると考えた。また、製作途中で友人とこれまでの経験や技能について話し合う相互鑑賞を取り入れることで、形や色、材料の特徴や構成の美しさなどを感じながら発想や構想したことを基に自分の表したいことを伝えられる表し方を工夫する力を育成することができると考えた。

(2) 主題に迫るために

ア 児童の実態について

表1 (P.3) は、発想や構想、主題の表し方に関する意識調査である。質問1の「自分のイメージ通りにつくることができますか。」という質問に対し、「つくることができる」と答えた児童は8人であることから、イメージしたことを表現することに苦手意識を持っている児童が多いことがわかる。質問2からは、新しいイメージが浮かぶのは、「材料を見たり触ったりしたとき」が21人、「友人と話しながらつくるとき」が18人と多い。また、質問3の「つくりたいイメージがもてなかったり表し方がわからなかったりしたとき」には、「友人に相談する」

表1 発想や構想、主題の表し方に関する意識・実態調査（平成26.9.1実施
笠間市立岩間第一小学校第5学年2組28人）

1	自分のイメージ通りにつくることができますか。	
	つくることができる	8人
	だいたいつくることができる	18人
	なかなかできない	2人
2	授業で、どのようなときに新しいイメージが浮かんできますか。（複数回答）	
	題材を知ったとき	13人
	材料を見たり触ったりしたとき	21人
	図鑑や写真などを見たとき	13人
	友人と話しながらつくるとき	18人
	友人の作品を見たとき	12人
	先生に相談しているとき	8人
3	つくりたいイメージがもてなかったり表し方がわからなかったりしたときどうしますか。（複数回答）	
	自分で考える	15人
	友人に相談する	19人
	先生に相談する	13人
	そのままにする	0人

が19人と多い。

そこで、本研究では、授業の中で、児童が材料で自由に遊んだり、友人と作品について話し合ったりしながら製作する活動の展開を工夫する。

イ 指導の工夫

(ア) イメージをふくらませるための材料

体験遊びについて

製作の前に、材料と触れ合ったり友人とかかわったりして活動する材料体験遊びをする。材料との出会いの中で、曲げる・ねじる・つなげる・巻く・巻き付けるなど自在に形をつくり、自分らしい形づくり（表し方）への興味・関心をもたせる。また、手を使って曲げる場合とペンチを使う場合や針金の太さによってできる形や見え方が違うことにも気付かせていきたい。次に、針金のどのような動きを自分の表現に生かしてつくるか、友人と意見を出し合いながらスケッチにかきこんでいく活動を取り入れる。

これらの時間を十分にとることで、浮かんできた造形へのイメージを次の製作に生かしていけるようにする。材料体験遊びを生かしたアイデアスケッチでは、4人グループで話し合いながら活動する中で、言語からの発想と材料からの発想をつなげていく。

(イ) イメージをふくらませるための相互鑑賞（中間発表会）について

形や色、材料の特徴や構成の美しさなどを感じながら、表し方を構想して表すために、製作途中で相互鑑賞（中間発表会）を行う。そこで、自分の作品の説明をしたり、友人から見たイメージについても聞いたりすることで作品の表し方やどんな工夫をすれば自分のイメージに近づけることができるのかを再考し、表現に生かすことができるようにする。

(3) 授業実践

ア 題材について

次	時間	学習活動・内容	関心	発構	創造	鑑賞
1	1	・友人とかかわりながら活動する材料体験遊びを通して、材料の素材感を生かしたアイデアスケッチをしようとする。	◎	○		
2	2	・材料や用具にふれ、形や見え方の表現を試しながらつくることができる。		◎		
3	2	・製作途中で相互鑑賞し、自分の作品のイメージを発表するとともに、友人から見た自分の作品のイメージやアドバイスを製作に生かすことができる。			◎	○
	1	・互いの作品を鑑賞し合い、自分や友人の作品のよさや工夫点などを見付けることができる。				◎

イ 指導の実際

(ア) 準備・資料 教師…世界のタワーの写真，作品例，学習カード

材料（太さの違うアルミ針金，綿，アルミはく）

用具（ペンチ，接着剤）

児童…集めた材料

	時	学習活動・内容	・指導上の留意点 ●評価
導入	1	1 本題材の学習内容をつかむ。 針金を使って、『マイタワー』をつくろう！	・タワーの写真を提示し、立体としてのバランスや形・色などの特徴や美しさについて話し合い、多様な発想を引き出せるようにする。 ・材料の針金と『マイタワー』の作品例を提示し、児童の興味・関心を引くとともに、タワーづくりのポイントがつかめるようにする。

		<p>2 針金で材料体験遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料に触れ，用具の使い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲げる ・ねじる ・つなげる ・まく ・まきつける <p>3 材料体験遊びを生かし，学習カードに，『マイタワー』のアイデアスケッチをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>●【関心・意欲・態度】（観察，対話） 針金や用具に進んで関わり，つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・針金やペンチの使い方を確認し，楽しみながら自由に材料に慣れさせる。 ・安全面での指導を行い，注意を促す。 ・造形遊びの中で，針金からつくり出される形の面白さに気が付けるよう助言する。 ・材料遊びの中で，バランスよく立たせている作品を取り上げ，次のアイデアスケッチに生かすよう助言する。 ・アイデアスケッチの参考例を示し，土台となる部分の太い針金の組み立て方や，太さの違う針金をどのように組み合わせるかなど，説明書きを加えてかくよう指示する。 ・考えが浮かばず戸惑う児童には，どんなタワーにしたいか話しながら材料に触れ，言葉と材料の発想がつながるよう支援する。 ・針金でつくる形や見え方を上手にアイデアに生かしている児童を称賛し，紹介する。
製作	2 ・ 3	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>太さの違う針金の特徴を生かして，『マイタワー』をつくろう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 太さの違う針金の特徴を生かし，表現方法を試しながらつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスよく土台をつくっている児童の作品を提示し，いろいろな方法で立たせることができることに気付かせる。 ・自分のイメージに近付けるよう材料や用具を工夫して製作している児童を称賛する。 ・製作の途中で，新たなアイデアが浮かんだ児童には，アイデアスケッチとは違った『マイタワー』になることも認めるようにする。 ・針金で思うような表現ができずに戸惑う児童には，どのようなイメージにしたいのか確認しながら材料や用具の使い方を助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>●【発想・構想】（作品，観察，学習カード） 材料や用具にふれ，形や奥行き，見え方の表現を試しながらイメージをふくらませて構想することができる。</p> </div>
鑑賞	4 5	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お互いの作品を鑑賞し合い，作品の仕上げに生かそう。</p> </div> <p>2 中間発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の作品のイメージや工夫点を発表する。 ○ 友人の作品を見て感じたことや，発表を聞いて表し方のよさや工夫点，面白さについて感じたことを付箋に書き，交換する。 <p>3 作品を仕上げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友人の作品で工夫している点や形などのよさやおもしろさが感じられる表し方について，付箋に記入し，話し合うことで，自分のこれからの表現や次時の学習の手掛かりとする。 ・友人の作品のよさが見付けられずに戸惑う児童には，どんなふう感じたか，一緒に話しながら出てきた言葉や単語を付箋に記すよう助言する。 ・中間発表会で意見を交流したことを作品に生かすよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>●【創造的な技能】（観察・学習カード・製作中の作品） 自分のイメージをふくらませて，自分の表し方を工夫しながら作品を製作することができる。</p> </div>

6	1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 友人の発表を聞き、工夫している点や形よさや面白さなど、具体的な視点をもって鑑賞できるよう助言する。 自分の作品については、材料体験遊びや中間発表会を通して、表現したいイメージが変わっていった点や工夫して表現できた点について触れるよう促す。 鑑賞が深まらない児童には、よいと思うところを話しながら、言葉を引き出せるよう支援する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">友人の作品を鑑賞し、よさや工夫点を見つけよう。</div> 2 『マイタワー』鑑賞会を開く。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ●【鑑賞の能力】（観察・学習カード） 自他の作品について、よさや工夫点を感じ取ることができる。 </div>

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) イメージをふくらませるための材料体験遊びの設定について

題材の導入時に、世界中のタワーの写真や針金の作品例を提示したところ、「このタワー知っている。」「すごい。早くつくってみたい!」といった歓声が上がり、製作への意欲の喚起となった。

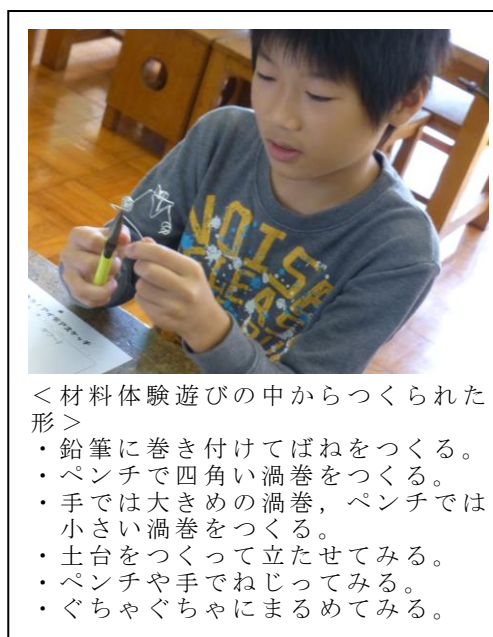
製作の方向性が見えたところで、針金を使った材料体験遊びを行った。資料1は、材料体験遊びをする様子である。児童は、材料遊びを通して様々な形をつくり出していた。また、友人の作り出したおもしろい形に対し、「それどうやってつくったの?」、「この曲げ方教えて。」と質問しながら、自分の形づくりに生かそうとする様子が多く見られた。

材料体験遊びの時間を十分にとったところで、針金のどのような動きを自分の表現に生かしてつくるか、友人と意見を出し合いながらスケッチに描きこんでいく活動を取り入れた。表2は、材料体験遊びがアイデアスケッチへのイメージのふくらみにつながったことを示すアンケート結果である。

A、Bと答えた児童が85%であることから、材料体験遊びをしたことが、製作へのイメージをふくらませることにつながったと考えられる。

以上のことから、導入段階における材料体験遊びがイメージをふ

資料1 材料体験遊びをする児童の様子



- <材料体験遊びの中からつくられた形>
- 鉛筆に巻き付けてばねをつくる。
 - ペンチで四角い渦巻をつくる。
 - 手では大きめの渦巻、ペンチでは小さい渦巻をつくる。
 - 土台をつくって立たせてみる。
 - ペンチや手でねじってみる。
 - ぐちゃぐちゃにまるめてみる。

表2 材料体験遊び後にアイデアスケッチをした児童の意識調査（平成26.11.5実施
笠間市立岩間第一小学校第5学年2組28人）

A	ふくらんだ	B	まあまあふくらんだ	
C	あまりふくらまなかった			
D	ふくらまなかった			
質問項目	A	B	C	D
材料体験遊びをしたことで、アイデアスケッチのイメージがふくらみましたか。	15人	9人	4人	0人

表3 作品づくりのためのイメージに関する意識調査
（事前：平成26.9.1 事後：平成26.11.5実施
笠間市立岩間第一小学校第5学年2組28人）

質問・回答項目	人数	
	前	後
製作途中で、イメージがふくらみましたか。		
ふくらんだ	9人	13人
どちらかというふくらんだ	11人	12人
どちらかというふくらまなかった	5人	2人
ふくらまなかった	3人	1人

くらませるための手立てとして有効であったと考える。

(2) イメージをふくらませるための相互鑑賞（中間発表会）の設定について

相互鑑賞（中間発表）では、自分の作品のイメージを友人に伝えたり、友人の作品についての感想や助言などを積極的に伝えたりする姿が見られた。表3は、児童の作品づくりにおけるイメージのふくらみに関する意識調査である。検証授業後、イメージがふくらんだと答えた児童が5人増えていることがわかる。ふくらまなかったと答えた3人の児童は、「自分のイメージを変えたくなかった」と答えており、自分のイメージをもって活動していたと考えられる。

表4は、自分の表したいことを伝える表し方を工夫してつくることに関する意識調査の結果である。検証授業後に、「工夫してつくることができた」と答えた児童が3人増えている。その理由には、「友人からのアドバイスを聞いて、作り直したらうまくいった」と答えた児童が13人、「友人の作品の工夫したところを聞いて、自分の作品にも取り入れてみた」と答えた児童が11人であった。

以上のことから、相互鑑賞の設定によって、イメージをふくらませ、自分の表したいことを伝える表し方を工夫して表すことができるようになったと考えることができる。

2 研究のまとめ

本研究では、小学校5学年「マイタワーをつくろう！」において、自らのイメージをふくらませ、工夫して表す力を育てる図画工作科学習指導の工夫について研究を進めた。イメージをふくらませるための材料体験遊びと相互鑑賞を取り入れた学習活動の在り方について究明した結果、次に示す児童の姿が見られたことから有効であった。

- (1) 授業の導入で、イメージをふくらませるための材料体験遊びを設定したことで、児童は、アイデアスケッチへのイメージをもつことができた。
- (2) 製作途中に、相互鑑賞（中間発表会）を取り入れたことで、友人から見た自分の作品の印象を知り、アドバイスなどを基に自分の作品へのイメージがふくらみ、工夫して表すことができた。
- (3) 学習過程で、友人と話し合いながら製作したり、作品を見合ったりする活動を取り入れることで、イメージをふくらませ、工夫して表すことができた。

3 今後の課題

イメージをふくらませるための相互鑑賞のより効果的な取り入れ方と、イメージの広がりの変容が見られるような学習カードの工夫について研究を進める。

〈引用文献〉

文部科学省「小学校学習指導要領解説図画工作編」平成20年8月

森坂実紀人編著「子どもがよろこぶ『遊びの活動』を取り入れた楽しい図工」学事出版株式会社、平成23年6月